

特集 学生の研究活動報告—国内学会大会・国際会議参加記 27

グローバル人材育成プログラム に参加して

永 井 聖
Akira NAGAI
物質化学科 3年

1. はじめに

2017年8月17日から2017年9月4日までの19日間グローバル人材育成プログラムに参加し、アメリカ合衆国カリフォルニア州のベイエリアにて研修を行った。主な内容としては、初日アメリカ到着後にサンフランシスコ観光、2日目に企業訪問、3日目には現地で活躍されている日本人の方による講演会に参加した後、ホームステイ先に移動しそれから2週間インターンシップに参加するというものであった。

2. 参加目的

最近ではインターネット等の発達により、様々なメディアを通してアメリカの情報を入手する機会が多くなった。しかし、実際に訪れアメリカの文化や海外で活躍する人材とはどのようなものであるか自分の目で見て感じる必要があると考えていた。そして、グローバル人材育成プログラムの存在を知ったときに非常に学びの多い研修となると確信したため参加を希望し、次の二つのことを主な目的として研修を行った。1つは日本と海外の職場環境の違いを知ること、もう1つは海外で活躍する日本人の考え方を知ることである。

3. 企業見学

2日目にOracle社、Google社、Facebook社を見学した、特に印象に残ったのはGoogle社での社内見学である。Google社内には様々な形のオフィスがあり、ジムやゲームセンターなどもあり休憩所も多く備わっていた。社員は食堂にて複数人で話し合っている人たちもいれば、非常に静かな部屋で黙々

と仕事をしている人、立ったまま仕事をしている人等、本当に様々なスタイルで仕事をしていた。人種も様々で、社員1人1人の個性を生かした職場であると感じた。

4. 講演会

3日目には講演会にて実際にシリコンバレーで仕事しておられる方々のお話を聞くことが出来た。シリコンバレーでのビジネスをする事の良い点や日本とは異なる独特の難しさ等を知ることが出来、非常に良い経験となった。常に多くのベンチャー企業が誕生し様々な投資がなされている点や、先ほどのGoogle社のように自由ではあるが、常に成果が求められる競争社会の厳しさも日本との違いだと感じた。

5. ホームステイ

ホストファミリーはベトナム出身の方で、夫婦2人で暮らされていた。とても明るくて親切な人であり、よく日本とアメリカの違い等について話した。きちんとした英語は話せなかったが、向こうも分かるまでずっと聞いてくださり何とか意味が通じたため、初めは英語での会話に緊張していたが次第に会話の回数が増えていった。「あなたはもっと色々なことを学ばなければならない。」との事で、タイ料理店やメキシコ料理店等、様々な国の料理店に食事に連れて行って頂いた。それぞれの店によって従業員や店の雰囲気が異なり、とても良い経験になった。

6. インターンシップ

今回のインターンシップでは、Senju Comtek corp. にお世話になった。こちらの企業は日本の千住金属工業株式会社の海外拠点となる会社で、主に半田ペーストの製造・販売を行っており、大手半導体メーカーの工場に半田ペーストを出荷している。私は8/21-9/1の2週間カリフォルニア州のサンノゼにあるサンノゼ工場に研修をさせて頂き、私は主に

製造、検査、出荷・受け入れの3つの部門で仕事を体験させて頂いた。

製造部門では作業服を着用しクリーンルーム内にて、Flux と呼ばれる有機物のペーストと金属粉を混ぜ合わせ半田ペーストを製造する。顧客の注文によって Flux 量や金属の混合割合を変えるため、混ぜ合わせる際の攪拌環境や攪拌時間が毎回異なり、これらの調整に再攪拌が何度も必要な場合が多々あり、安定した品質を得るためには機械だけでなく、人の手が必要であることを学んだ。また、金属粉や Flux を使用する前に必ず袋のバーコードをスキャンする他、使用後の空になった袋も全て別の部門の人にチェックをしてもらう等、徹底した品質の管理の方法を学ぶことが出来た。

検査部門では製造部門から送られてくるサンプルの粘度、含有成分の量等を測定し製品が顧客のもとで問題無く使用できるものであるかをテストしている。私も実際にいくつかのテストをさせて頂くことがあり、貴重な経験となった。

出荷・受け入れ部門では、商品の梱包、保冷剤の準備等をさせて頂いた。出荷前には商品の他、必要書類を全て同封することが必要で、一つでもミスが出ると顧客のもとに届かなくなるため、自らバーコードをスキャンした後、別の部門の人にチェックしてもらう等、幾重にも重なったチェックによる品質保証が行われており、非常に勉強になった。

また、サンノゼ工場はアットホームな雰囲気の方皆さんとても親切に接して下さいました。業務中に私が英語を理解できないときには何度も繰り返して言って頂け、こちらの片言の英語も親切に聞いていた。休憩時間などには仕事以外の話もして頂けたため多くの発見があった。

7. おわりに

今回のプログラムを通してたった2週間という短い期間であったが、本当に様々な事を学べたという実感がある。また、インターンシップ先で感じた日

本の職場との大きな違いは様々な人種の人がいることである。担当者の方と食事に行く機会があり、その際に職場のことや従業員のこと、アメリカならではのエピソード等についてお話をすることが出来た。その中で、シリコンバレーのように様々な人種、アイデンティティーを持つ人たちが共に働く職場で活躍するためには、それぞれの文化やアイデンティティーを積極的に学び、共に理解することの重要性を学んだ。また、その点に関しては2週間ではまだまだ学習が足りず、これからの課題でもあった。

また、英語での会話も初めの1週間は全然上手くできなかったが、周りの方との会話の中で少しずつ覚えていき、2週目はよりスムーズに会話ができるようになったためとても良い経験になった他、英語の能力を上達させるためには、まず出来なくても話しかける事が大切であると感じた。

もう1つ、実習中に気付かされたことは、自分が日本人として見られているということである。インターン先、ホームステイ先共に、会話の中で日本のことについて興味を持って頂いている方が多く、質問されることが非常に多かった。ある程度質問には答えられたが、いくつかの質問には答えられなかったため、自分自身生まれ育った日本についてまだまだ勉強が足りないと感じたのと同時に、日本人であるということが自分のアイデンティティーであることを再認識した。グローバルな人間とは、異文化並びに自分自身のアイデンティティーにも深い理解がある人間であると学ぶことが出来た。

今回の研修では本当に多くのことを学び、とても良い経験になった。これも、英語や実際の仕事について全くの初心者である私に対して親切に接して下さいました皆様のおかげである。インターンシップ生として受け入れて下さった Senju comtek corp. の皆様並びにゲストとして受け入れて下さったホームステイ先の皆様に心よりお礼申し上げます。